

第6回 SKTS

開催日：2016年12月26日（月）
開催時間：20時10分～21時00分
出席者：五島、大井、下平、堀尾

コミュニケーションがとれる人のケアととれない人のケアの縦軸と、その人の環境を横軸に考えたらどうか（五島）

コミュニケーションがとれる人ととれない人とをわけて考えると整理しやすいかも。意思確認がとれない人は、コミュニケーションがとれない人とされているが本当はそうではない。じっくり聞いてもらおうと確認できることもある。認知症の基礎疾患による食行動の特徴もあり対応策を考える一助になる。認知症末期は本人の意思確認ができず、治療方針は家族と医者で決めているのが現状。（大井）

次回は勉強会だが、こんなようにしたら考えやすいという軸を作っておけば良い。

認知症末期は、他の末期とは違う？・・・癌末期の定義はないが、概ね予後6か月以下。言葉でのコミュニケーションがとれないというのがアルツハイマー型認知症の末期。認知症の人は語彙が減りなかなか自分の言葉で説明ができない。

今回各自提出したレポートのキーワードは3つ

認知症の方への意思確認

食のケア（環境、人も含む、快の維持）

認知症末期への対応 経管栄養

認知症の方への意思確認

将来意思表示ができないことに対し、書いたり聞いたり（まとめたり）する。それができていないから勝手に、本人の意思確認なく決められている。

本人がそうでなくても、まわりで決めてしまう。

まわりでは食べられないことが命の終りと考えられない。

人生の最終段階食べられなくなるのはあたりまえのこと

施設や病院では家族が食べさせて誤嚥すると家族と意見が対立してしまう。方針を共有できていれば良い話だが、それができる人（調整できる人）が少ない。

安全に・・・を考えるとペースト食になってしまう。

施設で、家族向けに人生の最終段階での栄養の教育は大切。

家族に対して、SKTS 発のペーパーを書くのはどうか 教育ツールとして。

認知症になった家族に対して、お伝えすべきツール。

Youtube のワンポイントで伝えるというのはどうか。

1人のひとに対する、丁寧に細かく、その原因が何か、そのアプローチとかを動画で作ってほしい。1人の人に対してたくさんのことがある。それを積み重ねていくと良いものになっていくはず。

食べられない人が、専門職がかかわることで、いろんな原因にアプローチしたら食べられるようになったという事例を多く作りたい。

機能、環境、栄養の3つを評価できれば、作ることができる。

次回は勉強会

開催日：2017年1月24日（火）

時間：20時00分～

場所：ふれあい歯科ごとう